

令和7年度

パピーナ西荻北保育園

すくわくプログラム

テーマ： 巧緻性

テーマを設定する

洗濯ばさみをつまんだり、ぼたんをとめたりすることを楽しむ。自分でやってみようとする気持ちを大切にしながら、手や指を使う心地よさを感じ取り、挑戦してみようとする意欲や「できた」喜びを育てていく。

活動 指先の巧緻性

「絞る」「広げる」「干す」「とめる」「たたむ」の言葉を知り、動作を理解する

環境をデザインする

●準備した物 タオル、クリップ、紐

活動スケジュール

3歳児クラス

日にち	令和7年5月8日
時間	30分
参加人数	15人

探究活動を実践する

●活動内容

洗濯物を洗った後の工程を楽しむ

●子どもたちの様子

濡れたタオルを触った子どもたちは「冷たい！」と驚きながらも、両手でしっかりと絞ろうとする姿があった。洗濯バサミを見せて「これは何か知っている？」と問いかけると、「洗濯バサミ」と答える姿が見られた。洗濯バサミを両方の手の指を使って、広げたタオルにギュッとつかんで干すことができた。干したタオルを取り込み、折りたたむことまで、楽しんで取り組んでいた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

ごっこ遊びが好きな年齢なので導入から興味津々で講師の話をきいていた。指先の発達に個人差は感じられたが、言われたことをやってみようとする姿がよく見られた。また、洗濯を干すことだけでなく「いってきます」「いってらっしゃい」等の言葉のやり取りも楽しんでいて、最後まで集中が見られた。

講師より

洗濯バサミを両手で操作する中で、指先に力を込めたり、手元を意識して動かしたりする経験となった。タオルを押さえながらとめる動きにも集中し、力加減ややり方を自分なりに工夫する姿が見られた。

令和7年度

パピーナ西荻北保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

テーマを設定する

数を数えたり並べたりする遊びを楽しみながら、数のまとまりや順番に自然と気づく。友だちとの関わりの中で、考えたり工夫したりする楽しさを感じ取り、自分なりに数に親しむ意欲を育てていく。

活動 数を比べる

一対一対応の概念を理解する

環境をデザインする

- 準備した物 積み木

探究活動を実践する

- 活動内容

数を比べて組み合わせてみる

数の比較の言葉「多い」「少ない」を理解する

- 子どもたちの様子

同じ数かどうかを確かめるために「な～かよし」と言いながら、一つのコップに1本ずつストローを組み合わせていくことを楽しんでいた。お弁当とふたでは、「仲良しできたから同じ数」と気づいて言葉にする子もいた。女の子と三輪車、りんごと男の子など、さまざまなものを一つずつ対応させながら、「仲良しできたから同じ数」と確かめていく様子が見られた。男の子と傘の数が合っていないことに気づくと、「あ！傘と男の子仲良しじゃない！」と声をあげる姿もあった。



- 振り返りをふまえた気づき

担任より

果物と人の数をそれぞれ数え、確認しながら組み合わせを考える様子が見られた。一つの組み合わせが出来ると「できたよ！」と講師や保育者に知らせていた。数が合わない時も、どうしたら良いのか講師と一緒に考えて答えを導き出していた。

講師より

子どもたちは積み木などの具体物を使いながら「仲良し」と言いながら一つずつ物を組み合わせていく中で、数が合っているかどうかを自分で確かめようとする姿があった。数が合わないことにも気づいて声にするなど、実際に手を動かしながら数を見比べるやりとりを通して、数の違いに気づく力が育ってきている。

令和7年度

パピーナ西荻北保育園

すくわくプログラム

テーマ： ことば

テーマを設定する

言葉の音やリズムを感じ取りながら、しりとりや音あそびを楽しみ、言葉のつながりに親しんでいく。安心できるやりとりの中で、自分らしく言葉を選んだり組み合わせたりする楽しさを広げ、表現する意欲を育てていく。

活動 音の数

いろいろな言葉の音の数を理解する

環境をデザインする

●準備した物 なし

探究活動を実践する

●活動内容

物・絵を見て発音して、音を数えてみる

3音の言葉を発表する

●子どもたちの様子

「キリンとみかんの横に3個ずつ貼ってあるよね？なんでだろう？」と問いかけると、「音の数」と答える子がいた。「じゃあ、何回口が動くか確かめてみよう」と促すと、「みかん。キリン。本当だ！3回だ！」と口の動きを確認する姿が見られた。丸を1つだけ貼り出して「1つの音のことば、あるかな？」と尋ねると、「目」「胃」「歯」「蚊」「手」など、次々とあがった。「3音の言葉、なにがあるかな？」と聞くと、自分の名前を嬉しそうに発表する子もいた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

イラストの横の丸が言葉の音の数を表していると気付くと、驚きと喜びを感じている様子だった。自分でも“1つの音の言葉”や“3つの音の言葉”を考え、思い浮かぶと早く講師に伝えたいという様子が見られた。

講師より

子どもたちは、言葉に含まれる音の数に気づき、自分の声と動きを使って確かめようとする姿があった。短い言葉から自分の名前まで音を数える中で、言葉のつくりや音のまとまりに興味をもち、知っている言葉を音の単位で捉える体験を通して、言葉への関心がさらに広がっているように感じられた。